2022年02月07日 中日新聞 朝刊 25頁

備える 3.11から　第196回　防災道の駅

復旧・復興拠点へ 急ピッチ

中部の施設　駐車スペース確保 ■ 土地かさ上げ

ドライブ中の休憩やお土産の購入に欠かせない「道の駅」を、防災に役立てようという動きが進んでいる。東日本大震災でも被災地支援に活用され、国土交通省は本年度、「防災道の駅」として全国で三十九カ所を選んだ。暮らしに身近な道の駅の新たな役割とは―。

（横井武昭）

道の駅は昨年六月現在で全国に千百九十三カ所ある。一九九三年に国交省が登録制で始め、主に地元の自治体が設置。休憩のための施設は観光や暮らしの拠点にもなるなど多様化した。

災害時にも活用され始めた。最大震度7を記録した二〇〇四年の中越地震で新潟県十日町市の道の駅「クロス10十日町」は給水の拠点となり、仮設住宅も建てられた。

一一年の東日本大震災では、内陸部にある岩手県遠野市の道の駅「遠野風の丘」が沿岸部の被災地に向かう自衛隊の中継拠点になった。

こうした事例を受け、国交省は昨年六月に全国三十九カ所を「防災道の駅」に選定した。都道府県の地域防災計画で「広域的な防災拠点」に位置づけられていることや建物の耐震化、二千五百平方㍍以上の駐車場を備えることなどが要件。国は防災機能の整備を交付金で重点支援し、事業継続計画（BCP）の策定や防災訓練もサポートする。災害時に自衛隊や警察、国交省の緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」など救援部隊と緊急物資を受け入れ、復旧や復興の拠点となる。

選定された各道の駅を訪ねると、それぞれの特徴や課題が見えてくる。一九年にできた愛知県豊橋市の道の駅「とよはし」は、昨年二百二十万人が訪れ、全国有数の来場者数を誇る。地元の農産物や新しくきれいな施設が人気で、名古屋や浜松からも客が来る。

同市では南海トラフ巨大地震で太平洋側で最大一二・九㍍、三河湾側で最大一・九㍍の津波が想定される。「とよはし」は標高約二五㍍の場所にあり、道路利用者の一時避難場所になるほか、自衛隊や消防、警察の救援部隊を受け入れる。防災倉庫には二万五千食の食料や一万五千本の水を備える。

「災害時に駐車場のスペースをどう確保するかが課題」と市担当者。ヘリポートとして使うため車のタイヤ止めをなくして照明の数を減らしたが、大型トラックを含め来場者が多く満車になることも。吉開仁紀副駅長は「災害時はお客さんも不安だと思う。救助が来るまでどう待機してもらうか。スタッフの教育をきちんとやっていかないと現場は混乱する」と気を引き締める。

道の駅が全国で一番目に多い岐阜県では大野町の「パレットピアおおの」が選ばれた。屋根付きの回廊「Oリング」（直径六十㍍）のある芝生の広場は、災害時に自衛隊の活動スペースとなり、敷地内の子育て支援施設は災害応援要員の指令拠点に変わる。防災井戸やマンホールトイレも設置。ただ、周辺は揖斐川と根尾川に挟まれ、浸水エリアにある。町は土地をかさ上げし、排水ポンプなど対策を講じる。

三重県志摩市の道の駅「伊勢志摩」は、観光客内窓口があり、魚介類を扱う物産館も併設する。高台にあり津波や洪水の懸念はないが、ハード面の整備はこれから。市担当者は「今ある貯水槽も既存の施設を運営するためのもの。自衛隊や警察の拠点になったら、敷地が限られる中でどれぐらいのものを どこに設置すればいいのか」と戸惑いながらも「スピード感をもって準備を進めたい」と語る。

国交省は「防災道の駅」を百カ所に増やすことを目指す。同省道路局の担当者は「まだ進んだばかりで、各道の駅でどういう機能強化をするのか検討してもらっている。防災面の期待が高まっており、災害時に機能する道の駅をつくりたい」と話した。

上 地元の農産物が人気の道の駅「とよはし」＝愛知県豊橋市で
中 屋根付きの回廊「Oリング」が目を引く「パレットピアおおの」＝岐阜県大野町提供
下 「パレットピアおおの」にある防災倉庫＝大野町で

中部7県の「防災道の駅」

県	市	道の駅名
愛知県	豊橋市	とよはし
岐阜県	大野町	パレットピアおおの
三重県	志摩市	伊勢志摩
静岡県	富士宮市	朝霧高原
長野県	塩尻市	小坂田公園
福井県	大野市	越前おおの荒島の郷
滋賀県	甲良町	せせらぎの里こうら

災害時の役割 明確に

国交省道の駅推進委　国崎氏

国交省の「『道の駅』第3ステージ推進委員会」の委員を務める危機管理教育研究所（東京）の国崎信江代表に「防災道の駅」の役割や課題について聞いた。

◇

もともと道の駅は東日本大震災などの被災地でかなり役立っていた。そこで、防災拠点にしっかり位置づけた方がいいのではとの議論が出てきた。国は、自衛隊や警察、テックフォースが被災地に向かう前に、道の駅に「防災道の駅」と言った時に社会いやすいように位置づけた。

非常に期待されるが、「防災道の駅」とは思惑が違う。地元住民や観光客は災害時に助けてくれるのではと期待するが、それを道の駅側の人らは知っているのかということ。手厚くケアしてくれる国の強い支援と後押しがあって、それ成り立つ。旗を振った国交省は形だけでなく魂を入れなくてはと励むはずで、この三十九カ所をモデルに広がればいいと思う。課題は多いが、防災拠点として一歩踏み出したところ。道の駅や地域をどうしていくのか丁寧につき合わせ、解決に向け段取りが組めれば。

物資ももらえると期待するが、道の駅の従業員も家庭があるので家に戻る。その時誰がケアするのか。

道の駅が、できることできないことをもっと明確にするべきだ。救援部隊が来た時、観光客や地域の人とどう分けるのか。続々と入ってくる車をどう誘導するのか、それを道の駅側ができるのか。シミュレーションをした方がいい。道の駅同士でカバーやこと。手厚くケアしてくれる。旗を振った国交省は形だけでなく魂を入れなくてはと励むはずで、この三十九カ所をモデルに広がればいいと思う。課題は多いが、防災拠点として一歩踏み出したところ。道の駅や地域をどうしていくのか丁寧につき合わせ、解決に向け段取りが組めれば。

災Seeing さいとシーイング

「隠された震災」備えに警鐘 ▼11▲

昭和東南海地震（愛知県半田市）

昭和東南海地震でとくなった学徒を慰霊するために建てられた「殉難学徒之像」＝愛知県半田市の雁宿公園で

愛知県半田市の高台にある雁宿公園。市民の憩いの場として親しまれている公園が、半田の歴史と文化を伝える石碑などが集中して立つ場所でもある。公園の「北エリア」の木立の中に「殉難学徒之像」がある。

「昭和東南海地震によって中島飛行機半田製作所などで亡くなられた学徒を慰霊するために建てられた像です」。名古屋大の護雅史教授（地震工学）が説明してくれた。

昭和東南海地震は一九四四年十二月七日、紀伊半島沖を震源に発生。プレート境界型の南海トラフ地震でマグニチュード（M）は7・9。戦時下だったため正確な被害が報道されず「隠された震災」とも呼ばれる。死者は愛知、三重、静岡県を中心に千二百十三人に上った。市町村別では半田市が最も多く百八十八人。そのうち、軍用機を造っていた中島飛行機半田製作所などに動員されていた学徒が九十七人を占めた。半田市は最大震度6程度だったとみられる。

殉難学徒之像の近くには、学徒の同級生が発起人となって建てた「追憶之碑」と、東南海地震と半田空襲でなくなった人の氏名を刻む「平和祈念碑」もある。像と二つの碑が、大地震の被害を今に伝える。

半田製作所は、臨海部に主要な工場が建てられていた。その中で最も被害が大きかったのが「山方工場」だ。跡地は今、半田市役所などが立つ。

市役所西側には「東南海地震被災の地」と刻まれた碑がある。以前は市役所近くの別の場所にあったが、二〇一四年の市庁舎建替え時に、「メモリアルロード」と呼ぶ市の歴史を紹介する通路脇に移された。

山方工場は、明治時代に建てられた紡績工場を転用していた。れんが造りの工場が倒壊し、約百三十人が亡くなったという。一方、川を挟んで北側に隣接していた「本社工場」は鉄骨造りの新築で、建物は倒壊せず、死者は出なかった。

なぜ、山方工場の被害が大きくなったのか。紡績工場を改造したため、飛行機を造るスペース確保のため柱などを撤去したことが一因とされてきた。しかし、半田市の作家西まさゑさん（そ）は昨年出版した著書「戦時下の東南海地震の真相」の中で異論を唱えた。

著書では、半田製作所の元社員の証言を紹介している。それを踏まえ、西さんは、紡績工場の天井側にも織物機械の装置があり、それを支える柱は撤去されたとみられるが、「屋根を支える大黒柱ではなかった」と指摘。これらの柱を取り除いても建物の強度には影響なかったと記した。

護教授も、西さんの見解と同様な見方を示す。「山方工場と本社工場の敷地は元々が水田の軟弱地盤だった。山方工場は、耐震設計がまだ導入されていない時期に施工された古い建物だったため、被害に差が出たのでは」と説明。今後発生が想定される南海トラフ地震に向け、「建物の耐震化が重要になる」と強調した。

（榊原智康）

「東南海地震被災の地」の碑を見る護雅史教授＝半田市で

CBCテレビによる動画はこちら

［アクセス］雁宿公園　石碑などがあるのは北エリア。南エリアにはアスレチック遊具などがある。名鉄河和線・知多半田駅から徒歩10分。

半田市役所　JR武豊線・半田駅から徒歩10分、名鉄河和線・知多半田駅から徒歩15分。知多バスの半田北部線・半田市役所前下車1分。

次回の「備える」は三月七日に掲載予定です。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています